

令和 6 度第 2 回文化施設のあり方検討部会会議録

開催日時	令和 6 年 6 月 22 日（土） 午後 4 時 30 分から 6 時 00 分まで	
開催場所	音声館 ホール内	
議題	1 開会 2 部会長挨拶 3 議事 （１） 文化に関するアンケート調査について （２） 奈良市音声館 実施計画（案）について	
出席者	委 員	萩原部会長、上田部会員、風間部会員
	事務局	谷田市民部長、池田市民部次長、森文化振興課長、荒益課長補佐、吉川課長補佐、徳山総務係長、奥村振興係長、野村
	その他	一般財団法人 奈良市総合財団 職員 3 人
開催形態	公開（傍聴人 1 人）	
議事の概要		
3 議事 （１） 文化に関するアンケート調査について 【議事説明】 ・ 文化に関するアンケート調査の結果（単純集計）について事務局から説明 【委員意見】 ・ 他自治体の調査においても奈良市と同様に、鑑賞する機会は満足しているが、体験する機会に課題があるという結果があった。 一方、奈良の特徴として観光がある。オーバーツーリズムの問題はあるが、観光と芸術をどのようにすれば相乗的に効果が出さるのかを考えていくことが必要ではないか。 ・ アンケート調査結果について、年齢別に施設利用状況を分かるようにクロス集計してはどうか。教育分野における普及活動が将来的に効果を生むということがある。若い世代に資源を投入していくべきかを判断するための資料とできるのではないか。 特に若い世代は SNS による情報収集が多く、昨今では世代による情報取得の方法に違いが大きく、それらを分析するためにも年齢別は必要だと考える。 ・ 音声館についていえば、「わらべ歌」をテーマに運営してきた。そういった点で子育て世帯についての情報も分析が必要ではないか。		

(2) 奈良市音声館 実施計画(案)について

【議事説明】

- ・ 資料「奈良市音声館実施計画作成にむけて」に基づき、施設のあり方やコンセプト案について事務局から説明

【委員意見】

施設のコンセプトと条例について

- ・ 資料についてのコンセプトについては同意できるので、どのように実現できるのが課題。

時代が変わってきているなかで、力点を変えるようなことが必要になっていると思う。アンケート結果をみても街の特徴として歴史が好きな人が多いというのがある。音声館条例については、変えるのであれば、わらべ歌や伝統芸能というものを含まれる内容にした方がいいのではないかな。

- ・ 音声館の位置づけを変え、この場所が新たな文化的コモンズの拠点であることを目指してもらいたい。施設としては、すごくポテンシャルがある。その部分を活かして何ができるかを考えていきたい。

音声館が出来たときは「文化芸術基本法」や「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」もなく、社会教育施設なのか、文化施設かも明確でなかったのではないかな。改めて音声館の施設としての位置づけをとらえなおしてみてもどうか。

- ・ 文化というのは広い意味を持つ言葉であり、楽器を弾いたり、何かを描いたりをするだけではなく、何かを人に伝えようとすることも含まれる。「音声」という言葉も、単なる芸能を表しているのではなく、人が自分の存在を表現していくためのものと捉えるのはどうか。音声館条例においても、特定の分野に限るのではなく、広くとらえていくことで、文化的コモンズの形成にもつながるのではないかな。

施設の使い方について

- ・ シンポジウム参加者のなかにも強い熱意をお持ちの方がいらっしゃった。「音声館の設置目的ではないのでできません」という態度ではなく、熱意がある人と共に活動することで施設に広がりを持たせていくべきではないかな。せっかく劇場があるのだから、新しい使い方を利用者と一緒に発見していくようにしてはどうか。

- ・ 今後、どのような使い方ができるかを考えるためのワークショップを開催していくことになる。もちろん新しいアイデアも大事だが、今ここを使っている方も大事にしていかなければならない。そのなかですり合わせていくことが必要である。そのヒントとなるようなワークショップにしていければと思う。

人材について

- ・「きっかけづくり」が重要であるとの認識かと思うが、資料にあるコンセプトを見た時に「用意したものを与えている」というものにみえる。本当のきっかけとは、自らが作り出していこうという動きのなかにあるのではないか。そのためには、コーディネートやマネジメントをする人が増えていくことが必要であり、その部分での意識化が必要ではないか。
- ・文化施設と人との関わりについては、イベントの来場者というのがあって、次にボランティアなどの運営に関わるというのがある。施設の関わる人のグラデーションがあってもいいのではないか。
- ・施設自体を開いていくことを考えていかなければならない。教育分野であったり観光分野であったり、外とのつながりをコーディネートできる人材を配置するなど、そういった資源の投入が必要ではないか。そうすることで、ならまち、あるいは奈良市全体の文化的コモンズの形成につながる。

今後の事業展開について

- ・奈良で活動をしていて感じるのは歴史を好きな方が多いということ。周辺にすでにあるのかもしれないが、歴史を案内できるようなプロジェクトがあるといいのではないか。大地の芸術祭ではボランティアに対して英会話教室を実施していたりする。なにかプロジェクトを展開するとたくさん企画が出来てきたりする。また、そういったプロジェクトからならまちの施設がつながっていくこともうまれるかもしれない。
- ・30年間で培ってきたことを再評価して、そのうえでこれからの活動に活かしていけることを考えてほしい。例えば、地域の学校に出ていくであるとか、外国人向けの企画をするとか、新たな事業を組み立てて、音声館から発信していくことを検討してみてもいい。

(奈良市総合財団)

伝統文化を活かしたインバウンド向けの事業展開は検討している。過去、旅行客に対して官民一体で観光案内事業を展開していたことがある。

具体的な企画を一度試験的に実施いただくのがいいかと思う。その結果をもって、今後どのように事業展開していくかの目安になるのではないか。